

出題分析			
試験時間	90 分	配点	200 点
		大問数	8 題
分量 (昨年比較) [減少	<input checked="" type="checkbox"/> 同程度	増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 難化]
<b>【概評】</b> 出題形式は昨年と同様で、大問数は計 8 題であった。大問ごとの設問数も昨年と変わらず、全体で 57 問だった。試験時間に対しての文章量・問題量は依然として多いと言える。ただ、例年通り、長文問題の英文はいずれも比較的読みやすいものであり、設問についても本文がしっかりと読めていけば素直に解答にたどり着けるものが多い印象である。問題数が多いので設問処理のスピードが問われる試験である。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 (系譜学的視点) ○行数：54 行 (昨年：60 行)	文化と時代の枠を超えた系譜学的視点について論じた文章からの出題。設問は、空所補充問題 4 問と内容一致問題 6 問。英文中の語彙や表現も標準レベルであり、設問も本文の内容が読み取れていけば素直に解答できる問題がほとんどであった。	標準
II	長文読解問題 (貧富の差と読解力) ○行数：59 行 (昨年：48 行)	貧富の差と読解力について論じた文章からの出題。設問は、空所補充問題 3 問と内容一致問題 6 問。本文の論旨は比較的明快であったが、その分より正確な内容理解が求められる設問も見受けられた。総じて標準的な問題であったといえる。	標準
III	長文読解問題 (教育と民主主義) ○行数：59 行 (昨年：55 行)	民主主義を維持する教育の役割について論じた文章からの出題。設問は、空所補充問題 3 問と内容一致問題 7 問。大問 I・II と同様に英文理解はそこまで難しくなく、正確に読み取れていけば素直に解答できる問題がほとんどである。	標準
IV	文法・語彙問題	短文の空所に補充する語句を選ぶ問題。昨年同様、7 問の出題であった。昨年と比較して簡単な問題が多く、解答に迷う設問はほとんどなかった。	易

設問別講評			
V	英文空所補充問題	17行の英文中にある6つの空所に補充するのに適当な語を選ぶ問題。昨年と比べ英文の内容がやや難しく、解答に時間を要した受験生も多かったかもしれない。	やや難
VI	短文内容一致問題	8～9行程度の英文の論旨を選択肢から選ぶ問題が4問。文章の内容が理解できれば迷わず選択できる問題がほとんどだった。難易度は例年と比べやや易しいといえる。	やや易
VII	英文空所補充問題	14行の英文中の6つの空所に入れるのに適当なものを、与えられた動詞の中から選び、語形を直して答える問題。昨年と変わらず、難易度は標準的。	標準
VIII	英文空所補充問題	11行の英文中の5つの空所に入れるのに適当なものを、与えられた動詞の中から選び、名詞に直して答える問題。こちらは昨年と比べ、難易度が上がった印象である。	やや難

#### 合格のための学習法

今年も例年同様に大問数8題の構成となっており、解答時間に比して設問数が多い傾向は変わらず、読解スピードを高めることが合格へのカギである。例年、長文のレベルは標準的であり、設問も紛らわしいものは少なく、素直な読み取りが求められる問題が多い。長文読解の演習量を増やして、読解スピードの向上を図っておきたい。また、文法・語彙・語法問題についても、標準レベルの問題が多い。基礎をおろそかにせず、文法や語彙力の強化を行っておこう。